

災害支援報告

西日本豪雨(岡山県倉敷市真備町)

認定NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク



支援開始の背景(1)

- 8月に保健師から連絡が入る

「豪雨による水害発生当初に1度大量に病院に物資が届いたが、それ以降の支援はない状態におかれている。当初送られたカレーとふりかけはとても助かったが、大量で同じものをずっと食べ続けているが当分減らない、患者が避難所で食生活が維持できるよう助けてほしい」

- 保健師に会いに行き、患者の状況などについて話し合い、**食物アレルギーの人に対しては、患者数に見合った継続的支援が必要**という結論に至った。

支援開始の背景(2)

- 私たちが豪雨発生後に患者数の推計をしたところ、真備地区という限られた地域についてだが、患者数は児童生徒で25人という推計になった。

(近隣地域で水没したところの推計は入っていない)

- 保健師、医師、地域の福祉施設関係者等の聞き取りや話し合いからも、推計がさほど遠い数字ではないことが明らかとなった。

被災地の状況

- 水没地域は建物が残り、家の中は文字通り空っぽの状態で壁紙すら残っていない。数十軒の中に1軒くらいは2階が浸水しておらず人が住んでいる。
- 真備地区の公立保育園は食物アレルギー患者はいるが支援を受けるには市の許可が必要という状況。
- 私立保育園は支援が届いていない。当初大量に届けられたカレーとふりかけが減っていない(子どもが同じものを1カ月継続して繰り返し食べることは困難)
- 給食設備が1階にあったため、2階で通常の保育をしているが給食が提供できない。11月に工事完成予定。
- 大人が泥のかき出しや家財道具の廃棄などをする間、子どもたちの居場所がないため、2カ所の公民館に仮保育施設が作られた。被災した私立保育園がもらった食糧を仮施設に届けている状態。

家屋、地域写真





NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

倉敷市真備地域の支援の形

- 避難所、行政の借り上げ施設にいる食物アレルギーの人に加熱せずに食べられる食品を2週間に1度届ける。
- 私立保育園(在園児150人、その内食物アレルギーがある子8人)の給食支援をする。食物アレルギーの子どもだけ食べ物があっても他の園児に給食がない状態では実質的に患者支援ができないため、全園児の給食支援に踏み切った。
- 牛乳を飲めていないことを保育園職員が非常に心配しており、牛乳提供の要請があった。
- 野菜をほとんど食べることができていない。育ちざかりの子の野菜不足の解消の一助に野菜ジュースの提供要請があった。

時間経過と共に変化する要請

- 避難所、仮設住宅(プレハブ住宅、トレーラーハウスなど)借り上げ施設(ホテル、アパートなど)へ移動するたびに生活環境が変わる(必要なものが変化する)
- 手荒れしない石けん、スキンケア用品
- 加熱しなくて食べられるものから加熱して食べるものへ一部移行している。まだ非加熱のものも必要。
母子家庭、母親が寝込んだ、夏からずっと神経を張ってきて疲れている、などの状況。
- 救急箱(こどもがよく熱を出す、インフルエンザ)を届けることになった。

